

# 音楽科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
ソルフェージュ	3年7組(音楽科) 19名 (男子3名, 女子16名)	音楽室2	視唱ステップアップ (全音楽譜出版社)	宮原 真紀

1 題材名 「ソルフェージュの基礎的知識を応用し、音楽を表現しよう」

2 題材の目標

- (1) 音楽を構成する要素である音程・リズムなどについて興味をもたせ、正しく理解させる。(情意目標)
- (2) ソルフェージュの発声・音程・リズムを理解させ、表現を工夫させる。(認知目標)
- (3) ソルフェージュについて理解を深め、表現する力を身に付けさせる。(感覚・技能目標)
- (4) 楽曲のもつ美しさと構造や構成する諸要素のかかわりについて理解させ、聴き取らせる。  
(感覚・技能目標)

3 題材の評価規準

- (1) 正しい音程・リズムを理解し、伸び伸びとした表現をしようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 旋律の美しさを表現しようとしている。(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 楽譜を見て音程やリズムなどを理解し、表現をするための技能を身に付けている。(表現の技能)
- (4) 自分の演奏や相互の演奏に関して、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。(鑑賞の能力)

4 題材の指導計画(全2時間)

これまでのソルフェージュの授業を通して習得した音楽の基礎的知識を音楽の表現に応用し、演奏表現できるように学習させる。

新曲視唱の課題を行い読譜力を高め、さらに、発展した内容に取り組み、ソルフェージュを学ぶことが音楽表現にいかにより必要であるかを認識できるよう学習を進める。

5 教材観

「ソルフェージュ」は、音楽を構成する上で根幹をなすものである。音楽科では3年間、「ソルフェージュ」を演奏表現の土台となるものとして学び、音楽的な基礎知識を習得し、表現活動に取り組んできた。既習の学習内容を踏まえ、いかにソルフェージュが実際の演奏に不可欠であるかを学ぶため、過去の大学問題例等を活用しながら、実践的な学習となるようにしたい。

6 生徒観

音楽科の生徒であるため、これまで音楽の基本的内容について多くの学習を進めてきている。19人の専攻ごとの内訳は、管弦打楽器専攻生11人、ピアノ専攻生4人、声楽専攻生4人となっている。

ソルフェージュは3年間を通して学習してきているが、視唱についてはやや苦手意識をもつ生徒もいるようである。現在、3年生は進路実現のため、授業の内容もより実践的な内容を学習している。本クラスは、進路である音楽大学受験において、新曲視唱などのソルフェージュの試験が課されている生徒も多い。進路実現のため、ひいては生涯にわたって音楽を学び続けるために、ソルフェージュについてしっかりと学ぼうと熱心に取り組む生徒が多く、明るい雰囲気の中で授業を展開することができる。

7 指導観

ソルフェージュの授業においては、音楽を構成する要素である読譜についての知識の習得が不可欠とな

る。正しい音程やリズムなどについて生徒がしっかり理解し、記譜ができ、歌唱できる技能を身に付け、伸び伸びと表現できるように指導を進めていく。既習の知識を踏まえ、豊かな表現ができるよう更なる技術向上を目指して指導したい。また、音階や音程、調性についても正確に理解させた上で、学習を進めていきたい。

## 8 本時の実際

### (1) 本時の目標

- ア 意欲的に取り組み、伸び伸びとした表現ができる。(関心・意欲・態度)
- イ 正しい音程やリズムを理解し、表現のための技能を身に付ける。(表現の技能)

### (2) 本時の展開

過程	展開	学習内容	指導上の留意点 ( )は評価の観点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視唱についての定義について触れ、前時の復習をする。</li> <li>・本時の学習目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音程や調性について理解させる。</li> <li>(関心・意欲・態度)</li> </ul>
展開	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新曲視唱について音程や調性について理解する。</li> <li>・演習を行い、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音程とリズムに注意させ、正しく把握させる。</li> <li>・机間指導を行い、生徒の理解度を確認し、個別に指導を行う。(表現の技能)</li> </ul>
	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新曲視唱課題について理解する。</li> <li>・新曲視唱を数名が行い、他の生徒はその課題を記譜する。</li> <li>・新曲視唱をした生徒の中から数名が記譜された楽譜について演習する。</li> <li>・まとめの演習を行い、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい音程を表現できるか、学習内容を把握させる。</li> <li>・机間指導を行い、個別に指導する。(表現の技能)</li> </ul>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと次時の予告を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新曲視唱についてまとめをし、次時の予告をする。</li> </ul>

### (3) 本時の評価規準

- ア 音程やリズムを正確に理解し、意欲的に表現しようとしている。(関心・意欲・態度)
- イ 楽譜を見て音程やリズムなどを理解し、表現をするための技能を身に付けている。  
(表現の技能)